

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市の八木澤商店の復興の話も、社長の河野通洋氏から聞く機会があった。マスコミでいろいろな形で紹介されているので知っている方も多いと思うが、このケースが興味深いのはインターネットを利用した「クラウドファンディング」が重要な役割を果たしていることだ。

クラウドファンディングは、インターネットを通じて多くの投資家から出資を募る手法である。多くの場合は小口の投資が多いようだ。

八木澤商店の場合は、「セキユリテ被災地応援ファン



伊藤元重の

ニュースな見方

ド」を利用した。このファンドでは、出資者は応援しよく知ってもらおうとしたい企業を選び、1口1万円と手数料500円を支払う。この1万円は、5千円が出資金、5千円が寄付となる。このファンドには、3カ月で5千万円が集まったという。

このクラウドファンディングの重要な点は、出資者と企業が相互に顔の見える関係になるということだ。八木澤商店は、負債やリスクをすべて公開した。自らサポーターであり、理解者の状況をさらけ出すことでもある。しよゆやつゆ

を主たる商品とする八木澤商店にとって、有力な顧客を確保したことになる。震災前には地域の大口顧客が主たる取引先であったが、震災などでその部分の売り上げは大幅に減少している。しかし、それを補うように、インターネットな商品企画のアイデアなども出してもらっているとい

従来のような大口取引は、東京・千代田の担当者は、そうした仕組みで客に直接販売する手法で、高い粗利がとれる。その

従来の、出資者や顧客と企業の間の距離は非常に遠かった。金融市場や商品市場の中で、個人も企業も歯車

出資者にとつては、自分が関わりたい企業に気軽に投資できる。小額であるか

見える関係となるのだ。

顔見える投資、企業を支援

クラウドファンディング

クラウドファンディングの重要な点は、出資者と企業が相互に顔の見える関係になるということだ。八木澤商店は、負債やリスクをすべて公開した。自らサポーターであり、理解者の状況をさらけ出すことでもある。しよゆやつゆ

従来のような大口取引は、東京・千代田の担当者は、そうした仕組みで客に直接販売する手法で、高い粗利がとれる。その

従来の、出資者や顧客と企業の間の距離は非常に遠かった。金融市場や商品市場の中で、個人も企業も歯車

出資者にとつては、自分が関わりたい企業に気軽に投資できる。小額であるか

見える関係となるのだ。

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。